

# ふしぎな岩

林芙美子

青空文庫



夜になって、ふしぎな岩は、そつと動きはじめました。岩が動くつてへんですね。

あわいお星さまをすかして、霧のような山風が、ひくい谷間から、ごう、ごう、ごうと吹きあげています。どこかの森の方で、フクロウが鳴いています。岩は、どっこいしよと起きあがって、せいっぱいにのびをしました。

「ああ、いい気候になったな……遠いところへ旅行をしてみたいな。」

と、ふしぎな岩は、むくり、むくりと少しばかり歩きました。すると、谷間の方から、ざわざわとササヤブをふみ鳴らして岩山の

方へ何か登って来るようなようです。ふしぎな岩は、「おや、何だろう？」と、じいっと耳をすましてまわりをながめました。

がさがさと音をたてて、やがて、一ぴきのオオカミのようなけだものが、いかにもつかれきったようなすがたでひよいと岩の前に登って来ました。岩はじいっと息をのんで、そのけだものを見ていました。

じいっと見ていると、それは、いつもこの山みちを通る、山小屋の飼犬のタローでした。こんな真夜中をどうして、いまごろ、タローがひとり歩いているのだろうか、岩はみようなことだと思っております。タローはつかれてへとへとになっていたのか、岩のところへ来ると、そこへ腹ばいになって、ウオー、ウオーと

谷底をながめながらほえたてています。

ふしぎな岩は、あまり、タローがほえるので、何ごとがあるのかと、

「タロー君、いったい、この真夜中に、どうしたというんだい？」と、声をかけました。

タローはびつくりしたようすで、ふつと、ふしぎな岩をながめました。

「私はここのとんび岩だよ。わかるかね？」

と、たずねますと、タローは急にしつぽをきつく振りたてて、

「ああ、とんび岩のおじさんかね。私はまたテングさまが声をかけたのかと思ったよ。」

と、なつかしそうに、岩の方へよって来ました。

「どうして、ここへ来たのかね？」

と、もう一度、とんび岩がたずねました。

「月のいい晩はここから海が見えるんだよ。急にね、人間に飼われてるのがいやになって逃げだしたくなつたんだ。だから、夜になると脚をじょうぶにして、あの海の向こうの方へ逃げ出して行ってみたいと思つて、今夜も森の方へ出て来てみたのさ……」

と、いいました。

「ああ、そんなことかね。おれもね、実は、ここに長いことこうしているのにあきあきしちまつて、なんとかいいところへ行つてみたいものだと思つているのさ……」

とためいきまじりにいうのです。

「ほんとうにどうして、ぼくたちは自由に方々を、人間みたいに行きたいところへ行けないのだろう……。こうしているのがつまらなくなっちまった……」

と、タローは、ウオー、ウオーと、谷間へ向かってほえたてるのです。

「それでも、お前さんは、まだ、私より自由なもの、どこへでも走って行けるだけいいじゃないか……。この谷間の底には、夜になると、ああして美しい燈ひがついているが、あそこにはいったい何があるんだね？　いっぺん、あそこへ行つて、私にもぎやかなところで、せいせいしてくらしてみたいものだな。」

と、岩がいうのです。

「うん、そんなに、おじさんが、谷底の人間のところへ行きたいのなら、今夜のような風の日に、ころころと転がって行ってみるといいんだよ。」

と、いいました。そうして、タローは、岩のそばへ来て、

「そのかわり、谷間へ行ってしまったら、ここへもどつて来るのはたいへんだよ。それでもよければ、一つ、ここから転んで行ってみるといいのさ。おもしろいこともないが、おじさんの心しだいだな。」

と、笑いながらいいます。岩はそういわれて考えてしまいました。一度、このまま谷底へ降りてしまったら、もう、二度とここへは

登れないのだと思うと、やっぱり、ここにじいつとしているのがいいようにも思えました。

「そうさなア……遠いところへ行ってみたい気もあるけれど、考えてみれば、ここをはなれてしまうのもさびしいにはさびしいんだよ。」

タローは、もう、とんび岩のぼそぼそとしたぐちを聞くのがいやになって、

「さア、これから、もう一度、谷間の村へ遊びに出かけて来るかな……。そうして、いまに海を歩いて遠いところへ行ったら、おじさんはきつと、ぼくをうらやましがらるだろうな……」

といいました。そして、急に耳をつつ立てると、さも、海を渡つ

て歩けるような意気ごみで、さアつと谷間の方へおりて行きました。岩はタローを見送つて、なんとなくさびしくなり、自分も急について行つてみたくなり、タローの後を追つて、ころ、ころ、ころツ、ころ、ころ、ころツとみちのないみちを静かに転んでゆくうちに、いつの間にか、重いからだの調子がとれなくなつて、ごろ、ごろ、ごろ、ごろーンと方途もなくいきおいよく谷間の方へ転がつてゆきました。眠っていた木や草が、きやアツと悲鳴をあげて泣きさけびました。

岩は転がつてゆきながら、「ああ、しまった、ああ、しまったぞツ！」とかなしくなりましたが、平たいところへ、どおんとからだを落ちつけるまで、自分の重たいからだをどうすることもで

きなかつたのです。地ひびきをたてて岩は畑のところへ落ちて行きました。

山の上はあんなに、ながめがよかつたのに、なんだか、あなぐらへでも落ちこんだように、まわりが暗くて、じめじめしていません。岩は泣き出してしまいました。あんなやけをおこさなければよかつたと思いました。

あくる朝になりますと、岩のそばには小さい流れがあつて、もの花が小川のそばに咲いていました。お百姓がおおぜいやつて来ました。

「とんび岩が落ちて来たぞ。こりやア、どうしたことかい、何か悪いことでもあるのじゃないかな……。山小屋のタローも、がけ

の上から落ちて死んでいたし、みょうなことがあるものだわい：

…」

と、岩をとりまいて話しあっています。なんの見はらしもない畑のなかで、とんび岩は、うんうんうなっていました。「ああ、タローも死んでしまったそうだが、分にはずれたことを考えたばかりに、あんなに平和だったいままでが台なしになってしまった。」と、とんび岩は、心から、さびしくなつて、山の上がなつかしくてしかたがありませんでした。

いったい、どうしたらいいかわけがわからないのです。見上げると、ような高い山の上には、いままでみんなから、とんび岩だ、とんび岩だと見られていた、自分のすがたがもう、そこにはないの

です。山の上では、たくさんの仲間がじいっと心配そうに、とんび岩を見ているような気がしました。

何日いても、海も山も見えないせまい景色なのです。——ある夜、岩は、思いきって、少しずつでも山へ登って行こうと思いましたが、夜中に起きて、少しずつ歩いてみましたけれど、からだがかたくてなかなか登りの道へ歩き出すことができません。とんび岩は、神さまにいのりしてみました。神さまは、いくらおいのりしてもなんともおっしゃってはくたさらないのです。

もう、こんなふうではしかたがないと思い、とんび岩は、来る日も、来る日も、朝から晩まで、じいっと神さまにいのりつけました。すると、ある夜ふけ、急にからだは風船のようにかかるが

ると浮き上って、まるでやわらかい風のように、とんび岩は空の上に舞いあがっていました。

とんび岩はみょうなことだと思いました。

からだの下を、ごう、ごう、ごう、とすごい風が吹いています。とんび岩はなんだか急におそろしくなってしまうて、ああ、おれはもう、神さまにおすがりするより道はないのだと、いつそうねっしんに、神さまへおすがりしていました。

眼がまわって、長い間、とんび岩は暗い暗い空中にただようていました。

しばらくすると、水のようなものが、ざあざあと音をたててからだじゆうに降りかかって来ました。とんび岩はああ冷たいと思

つて眼を開きました。まわりが水と霧のうずのようになり、どこにどうしているのかさっぱりわけがわからなくなりました。

すると、また、その霧が少しずつあわくとけて、風の中に吹きながれて行きます。雨が降ってもいるようなのです。とんび岩はむくりと身ぶるいしました。すると、その雨もやがてまた谷間の底の方へさアーと音をたてて逃げて行つたと思うと、はるかな向こうの方に、さあつと陽が登りはじめ、海のような光がとんび岩のからだの下に見えました。

静かに朝が立ちそめて、小鳥がチクチク鳴きはじめました。ふつと気がつくくと、とんび岩は、いままでのように、山の頂きにちやんとすわっているのです。とんび岩はあつと喜びの声をあげま

した。

「ああ、前のところにいる。前のところにちやんといるぞ……これはどうしたことじゃ。みようなことだぞ……」

と、まわりを見ました。とんび岩は夢をみたのです。とんび岩はむくむくとこおどりして、

「ああ、神さま！ 神さま、ありがとうございます。」といいました。自分の場所くらい、いいところはないのです。見はらしのいい海の上に、いくつも船がはいつて来ています。畑ではけしつぶほどのお百姓が時々、とんび岩をみあげては土をたがやして、平和な平和な朝でした。





# 青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系 第二四巻」ほるぷ出版

1978（昭和53）年11月30日初刷発行

底本の親本：「子ども朝日」朝日新聞社

1948（昭和23）年3月1日

初出：「子ども朝日」朝日新聞社

1948（昭和23）年3月1日

入力：神宮さち

校正：noriko saito

2014年12月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# ふしぎな岩

林芙美子

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>